

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 39 週 (9 月 25 日～10 月 1 日)

今週のコメント

RS ウイルス感染症は減少し、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加

定点把握感染症

「A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

第 39 週は前週比 5.9%増の 1,928 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、突発性発しんの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.0、2.4、1.8、0.8、0.4 である。

感染性胃腸炎は前週比 14%増の 603 例で、南河内・中河内 5.4、泉州 3.8 の順である。

RS ウイルス感染症は 9%減の 474 例で、大阪市西部 4.1、大阪市北部 4.0、中河内 3.3、南河内 3.1、泉州 2.7 と続く。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 35%増の 363 例の報告があった。中河内 3.1、豊能 2.4、南河内 2.3 であり、9 ブロックで増加した。

手足口病は 14%減の 151 例で、中河内 1.4、北河内 1.0 である。

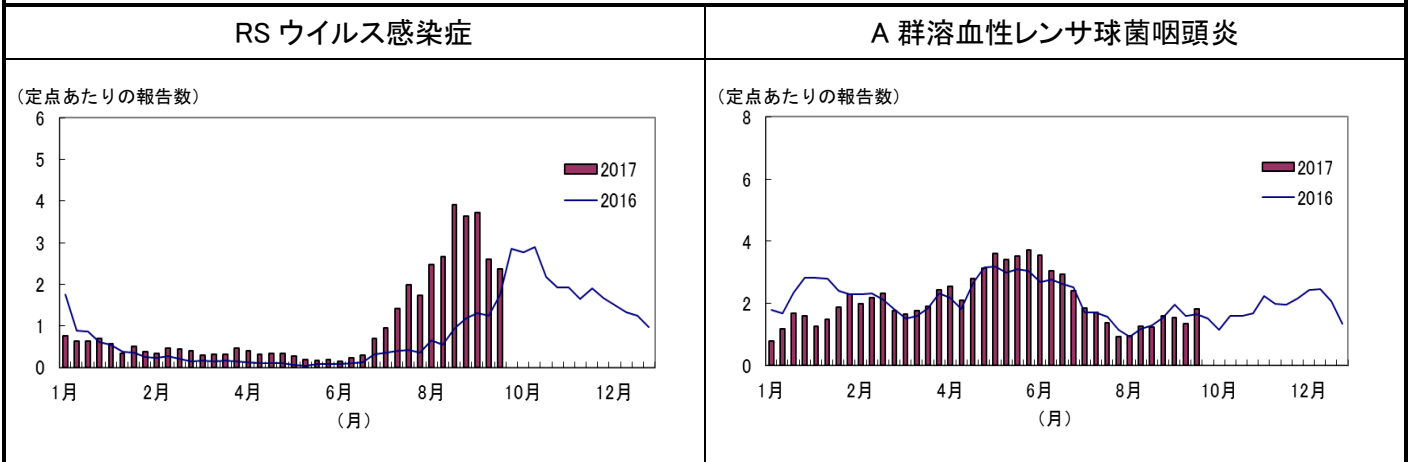


表 1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29)年 第 39 週 9 月 25 日-10 月 1 日)

第 39 週 の順位	第 38 週 の順位	感染症	2017 年 第 39 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 39 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 39 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.0	14%増	3.6	1 歳_15%
2	2	RS ウイルス感染症	2.4	9%減	1.7	1 歳未満_37%
3	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.8	35%増	1.6	4・5 歳_12%
4	4	手足口病	0.8	14%減	0.6	1 歳_31%
5	6	突発性発しん	0.4	11%増	0.6	1 歳_48%

第 39 週のコメント

～ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ～ 2014 年 9 月、5 類全数把握感染症となり、感染症発生動向調査では、全国で年間 1,500 例を超える報告があります

全数把握感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症は、カルバペネム系抗菌薬および広域β-ラクタム系抗菌薬に対して耐性を示す大腸菌や肺炎桿菌などの腸内細菌科細菌による感染症の総称である。広域β-ラクタム系抗菌薬以外に、他の抗菌薬にも耐性であることが多く、カルバペネム耐性遺伝子がプラスミドの伝達により複数の菌種に拡散していくことから、臨床的、疫学的に重要な薬剤耐性菌である。米国では、この 10 年間に、CRE の菌種全般の検出数は、4 倍に増加しており、国際的にも発生動向が注視されている。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)

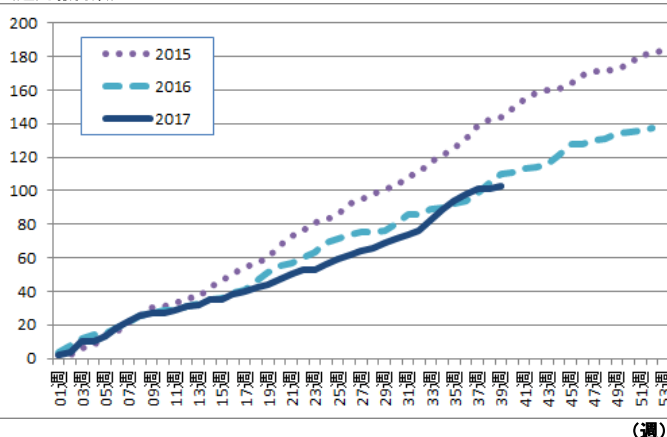


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 39 週 9 月 25 日-10 月 1 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 4名 (豊能ブロック 2名、南河内ブロック 1名、堺市 1名、府内累積報告数 142名)
4類感染症	レジオネラ症 1名 (中河内ブロック 1名、府内累積報告数 61名)
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2名 (堺市 1名、大阪市 1名、府内累積報告数 103名) 後天性免疫不全症候群 3名 (大阪市 3名、府内累積報告数 134名) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (北河内ブロック 1名、府内累積報告数 190名) 水痘(入院例) 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 14名) 梅毒 8名 (中河内ブロック 1名、大阪市 7名、府内累積報告数 567名) 破傷風 2名 (大阪市 2名、府内累積報告数 5名)
結核 (2017年8月分)	結核 新登録患者数:153名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 56名) (府内累積報告数 1279名、内 肺・喀痰塗抹陽性 526名)
麻しん、風しん	風しん 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 9名)

(2017年10月2日 集計分)